

特集

平成 30 年度 決算報告

問い合わせ 財政課 ☎ 829-1126

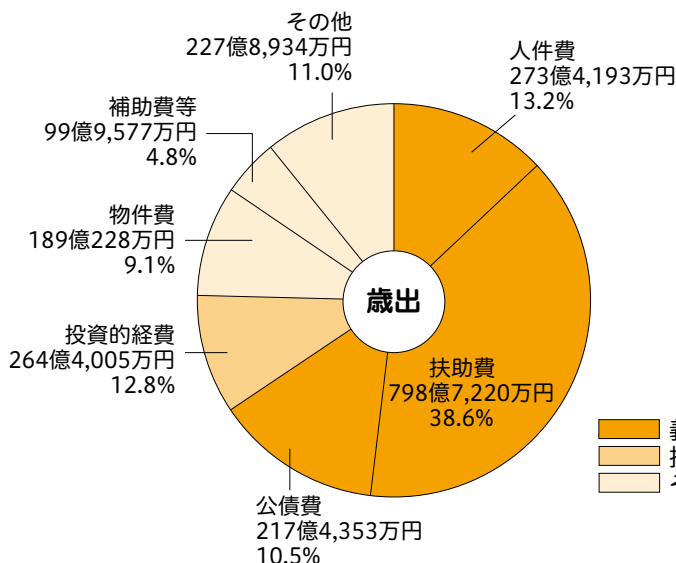
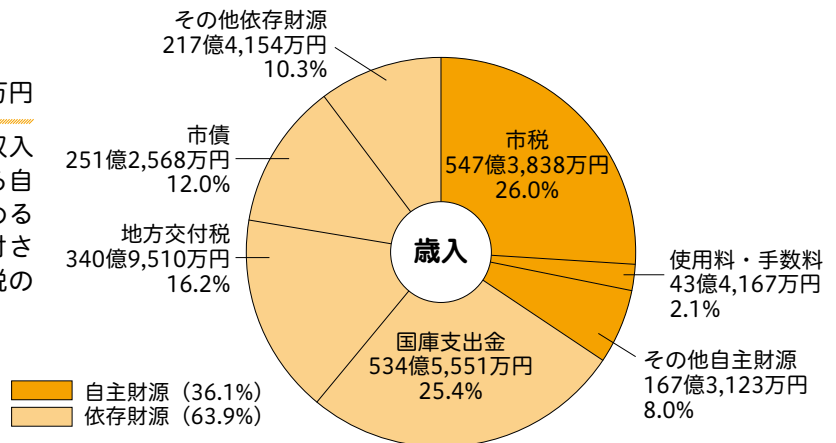
皆さんは、自分が納めた税金がどのように活用されているのか気になりませんか？平成 30 年度に、市にどのくらいのお金が入ってきて、そのお金を何に使ったのかを一緒に見ていきましょう。
(金額は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります)

一般会計

市が行う仕事の中心になる会計です。歳入では、市税や交付税が減少しました。歳出では、小・中学校の校舎などの改修などにより投資的経費が増加しましたが、臨時福祉給付金事業の終了や公債費の減少などから、全体では減少しました。平成 30 年度の一般会計の収支は、23 億 1,749 万円の黒字となっています。

歳入 2,102 億 2,910 万円

一年間の全ての収入。市税収入などの市が独自に確保できる自主財源が少なく(歳入に占める割合は約 36%)、国から交付される国庫支出金、地方交付税の割合が高くなっています。



歳出 2,070 億 8,510 万円

一年間の全ての支出。扶助費(原爆被爆者や子ども、高齢者、障害者福祉などの経費)の割合が高くなっています。

■ 義務的経費 (62.3%)
■ 投資的経費 (12.8%)
■ その他経費 (24.9%)

一般会計の歳入歳出を市民一人あたりで考えると

※平成31年3月末、人口418,998人で計算

歳入は **約 50 万円**

歳出は **約 49 万円**

基金（貯金）・市債（借金）などの状況

基金

市民一人当たりの貯金 **約 12 万円**

基金は、財政運営および特定の目的のための資金・財産です。平成30年度末の残高は約491億円です。

一時借入金

一会計年度内において、収入と支出の一時的な不均衡を解消するための一時的な借入金です。

（平成30年度の最高借入額）40億448万円

市の財産

種別	金額
土地	2,451億 113万円
建物	2,729億 8,517万円
工作物	827億 5,204万円
その他	249億 8,916万円
合計	6,258億 2,750万円

財政状況

財政状況を表す健全化判断比率は国が定める基準を全てクリアしています。実質赤字比率および連結実質赤字比率は赤字がなく、残り2つの指標も早期健全化基準未満となっています。

市債

市民一人当たりの実質的な借金 **約 26 万円**

市債は、学校や道路等の建設や災害復旧工事などのための借入金のことです。将来を含めた世代間で公平に負担しあう意味合いがあります。

平成30年度末の残高は約2,490億円（市民一人当たり約59万円）ですが、そのうち国からの支援約1,391億円を除いた実質的な市債残高は約1,099億円（市民一人当たり約26万円）です。

未収金

税金や介護保険料などは、ほとんどのかたが適切に納入していますが、一部の未納があります。平成30年度は、約6,000件（約7.4億円）の差し押さえを行いました。

収入種別	金額
市税	13億 3,880万円
国民健康保険税	22億 4,912万円
市営住宅家賃	6,405万円
介護保険料	1億 7,554万円
後期高齢者医療保険料	3,454万円
保育料	9,151万円
その他	8億 5,681万円
合計	48億 1,037万円 （前年度比 ▲8.2%）

の財政状況をお知らせします ※すべて令和元年9月末現在の数字

◆特別会計（国民健康保険事業、介護保険事業など12会計）

予算額	収入済額	支出済額
1,115億 3,300万円	461億 800万円	434億 3,800万円

◆一時借入金の現在高

19億 1,700万円

◆市の財産

6,258億 2,750万円

◆市債

3,395億 8,800万円（一般・特別・企業会計の合計）

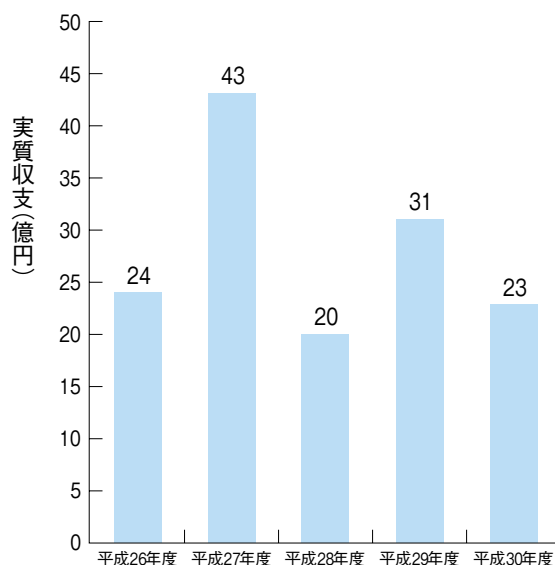
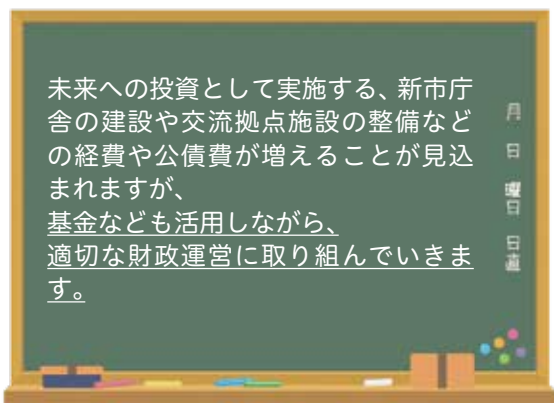
◆企業会計

会計	区分	予算額	支出済額
水道事業	収益的	収入	117億 9,200万円
		支出	98億 4,600万円
	資本的	収入	14億 3,300万円
		支出	88億 9,100万円
下水道事業	収益的	収入	133億 2,500万円
		支出	118億 3,100万円
	資本的	収入	75億 4,300万円
		支出	121億 8,200万円

一般会計の実質収支

実質収支は黒字の状態を維持しています。

実質収支とは、歳入と歳出の差額から、翌年度に繰り越すべき財源を引いた収支のことをいいます。収支の差額は、基金の積み立てなど今後の財政運営に役立っています。



特別・企業会計の決算状況

企業会計

それぞれの事業の収益(使用料など)で支出をまかなう独立採算が原則の会計です。

会計	区分	決算額
水道事業	収益的	収入 118億 8,804万円
		支出 98億 6,234万円
	資本的	収入 11億 8,564万円
		支出 59億 8,750万円
下水道事業	収益的	収入 134億 9,610万円
		支出 115億 7,460万円
	資本的	収入 58億 4,370万円
		支出 103億 3,392万円

収益的収入と支出

企業の経営活動により発生する収益と、それに対応する費用

資本的収入と支出

企業の将来の経営活動に備えて行う建設改良費や企業債償還金などの支出とその財源となる収入

特別会計

一般会計のほかに、特定の収入(保険料や使用料など)で、その事業の支出をまかなう会計です。

会計	収入済額	支出済額
観光施設事業	3億 8,522万円	3億 7,319万円
国民健康保険事業	567億 8,888万円	565億 4,476万円
土地取得	81億 8,120万円	81億 1,515万円
中央卸売市場事業	2億 1,624万円	2億 1,624万円
駐車場事業	4億 21万円	4億 21万円
財産区	4,922万円	4,922万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	1億 6,795万円	6,618万円
介護保険事業	465億 2,994万円	445億 21万円
生活排水事業	5億 2,316万円	5億 2,314万円
診療所事業	3億 2,221万円	3億 2,221万円
後期高齢者医療事業	55億 5,603万円	54億 8,763万円
長崎市立病院機構病院事業債管理	22億 2,429万円	22億 2,429万円
合計	1,213億 4,455万円	1,188億 2,244万円
前年度比	0.7%	1.1%

令和元年度の上半期(4月～9月)

◆一般会計

	費目	予算額	収入済額	収入率		費目	予算額	支出済額	執行率
歳入	市税	549億 2,500万円	303億 6,400万円	55.3%	歳出	民生費	1,045億 2,800万円	416億 9,200万円	39.9%
	地方交付税	351億 900万円	249億 8,200万円	71.2%		公債費	219億 5,700万円	108億 4,600万円	49.4%
	国庫支出金	612億 7,900万円	216億 6,900万円	35.4%		総務費	192億 5,800万円	72億 600万円	37.4%
	諸収入	84億 9,000万円	14億円	16.5%		土木費	298億 4,800万円	62億 5,900万円	21.0%
	市債	329億 2,800万円	0円	0.0%		教育費	212億 8,300万円	61億 6,600万円	29.0%
	その他	384億 8,500万円	132億 5,400万円	34.4%		衛生費	119億 7,800万円	45億 600万円	37.6%
	合計	2,312億 1,600万円	916億 7,000万円	39.6%		その他	223億 6,300万円	70億 8,600万円	31.7%
							合計	2,312億 1,600万円	837億 6,100万円

主な取り組み

希望あふれる人間都市」の実現に向けて
ものを紹介します。



check 03

地域経済の活力の創造

若年者雇用促進費 1,363 万円

長崎での若者の地元就職および定着を促進するために、地元企業の魅力を発信するための本やテレビ番組を制作し、県内外の大学などに広めたほか、福岡市で企業研究会を開催しました。また、学生の就職活動を支える保護者を対象とした就職活動セミナーを開催しました。

市産品の販路拡大に取り組む 地域商社の育成・支援 1,534 万円

市内小規模事業者の魅力ある商品の域外への販路開拓・拡大や、事業者に対する商品開発の支援などに取り組む地域商社2社の活動を支援しました。

check 04

環境との調和

三京クリーンランド埋立処分場の 維持管理 1 億 4,560 万円

三京クリーンランド埋立処分場の維持管理費のうち、66 万円で長崎大学と共同研究を行い、遮光がアオコ繁殖抑制(水質改善)に効果があることが解りました。今後、この結果を基に雨水調整池の水質改善を図ってまいります。

check 01

個性を活かした交流の拡大

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン 関連遺産」を世界遺産に 3,233 万円

長崎に2つ目の世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が誕生し、記念セレモニーを開催しました。また、構成資産などを適切に保存するための調査や、所有者が実施した構成要素の整備に対し支援を行いました。

九州新幹線西九州ルート の建設 5 億 7,817 万円

2022 年度の九州新幹線西九州ルート開業に向け、長崎駅やその周辺で長崎駅高架橋、新長崎トンネルなどの工事を進めました。

check 02

平和の発信と世界への貢献

クスノキ基金(積立金) 1,918 万円

福山雅治さんの呼び掛けによる被爆クスノキの保存に対する募金が寄附されたことを契機に「クスノキ基金」を設置し、被爆樹木の保存整備を推進しました。(平成30年度は6本、整備にかかる補助額375万円のうち94万円の活用)

平和祈念像を補修 1,285 万円

被爆75周年を前に、約20年ぶりに平和祈念像の劣化した塗装などの補修を行いました。



平成30年度の

市がめざす将来の都市像「個性輝く世界都市」
テーマを掲げ、取り組みました。ここでは主な



check 07

ともに支え合い、いきいきと
暮らせる地域社会の実現

通院に係る子ども医療費の助成を
中学校卒業までに拡大
4,285万円

子どもの医療費助成において、平成30年10月に通院に係る助成対象を中学生まで拡大しました。自己負担額は、1医療機関あたり1日800円、ひと月の上限は1,600円です。（調剤薬局は、負担なし）

check 08

多様な主体による地域経営

地域コミュニティの推進
1,414万円

地域コミュニティを支えるしくみをモデル事業として6地区において実施し、しくみの有効性や市の支援のあり方を、具体的に検証しました。令和元年度からこのしくみは本格実施され、令和元年11月1日時点で、13地区で地域コミュニティ連絡協議会が設立されています。

check 05

安全・安心で
快適な暮らしの実現

防災行政無線のデジタル化
2億1,977万円

防災行政無線のデジタル化整備工事に着手し、令和2年度の運用開始に向けてアナログ方式からデジタル方式への更新整備を進めています。

新市庁舎の建設 3億7,465万円

令和4年度中の新庁舎完成に向けて、実施設計を策定しました。また、建設予定地において埋蔵文化財の調査を行いました。

check 06

創造的で豊かな心の育成

空調設備整備（小学校・中学校）
6億8,682万円

現地調査や空調整備の設計を行い、空調の設置工事を進めました。なお、令和元年9月をもって、建て替えに伴う新設校を除く全小・中学校の空調を供用開始しています。

発達障害への支援を強化
329万円

発達障害のある子どもや発達が気になる子どもを育てる保護者が気軽に集い、交流・相談などができるよう、発達障害支援に特化した子育て支援センター「にじのくに」（三芳町）を平成30年10月に開設しました。

